

教育研究の広場

日本生態学会釧路大会ポスター賞で
農学研究科の林真子さんが大賞を受賞



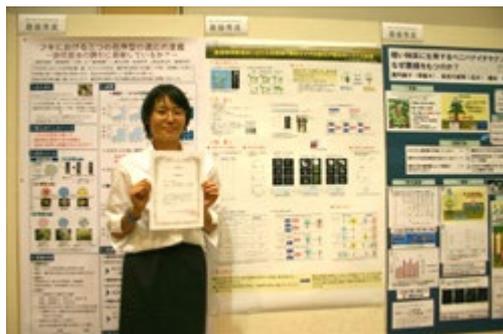
8月25日から29日の5日間に渡って開催された日本生態学会第51回大会（釧路大会）のポスター賞において、農学研究科生産環境学専攻 森林生産環境学講座の林真子さんが最優秀賞を受賞した。

ポスターの研究テーマは「亜熱帯照葉樹林における光環境と個体サイズの変化が樹冠形に与える影響」であり、この研究の新規性および独創性が高く評価され受賞に至った。また、同テーマで修士論文を作成する予定である。

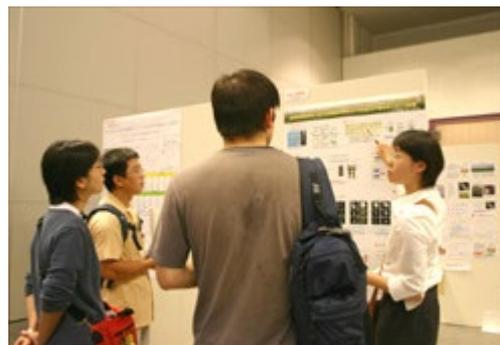
ポスター賞の選考において重視されたポイントは「ポスター自体の見やすさ、わかりやすさ」、「研究の質」、それに「発表技術」の3点である。制作したらそれで終わりというわけではなく、のべ50人～60人程度の聴衆を相手に解説、発表を行ない、説明のわかりやすさ、質問への応答も審査の対象になる。

亜熱帯フィールド科学教育研究センターの榎木勉先生に勧められて応募に踏み切ったそうであるが、最初に作り上げたものは、友人や後輩から「このポスターでは観客は素通りしてしまうのではないかと」散々な評価を受けたらしい。だがそのようなアドバイスが今回の結果に繋がったと林さんは述べた。

彼女は最後に、「これからのやんばるの森に対する、持続的利用という面で貢献できるような研究ができた」と、将来の抱負を語ってくれた。



▲ポスターの前で



▲解説をする林さん

[学報トップ](#)